

私書箱

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱916

AA日本ニューズレター



AA 日本ゼネラル・サービス・ミーティング・文書委員会
TEL03-590-5377 〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F



No.21

AAは現代の錬金術 人間らしさの回復を求めて

比嘉 千賀 先生
栃木県精神保健センター所長

毎日毎日が火事場のようなアルコール医療の現場から離れ、精神保健という現代社会の重要課題でありながら、前人未到のジャングルのように未開拓で、とらえどころのない分野に身をおいてから、まもなく3年になる。

何をしても構わないという自由さと、面白さがある反面、自分の存在や役割や、進むべき方向性が分からなくなるときもある。このように模索しながら進んでいる私に、問題の所在を照らして明らかにしてくれたり、それにどう切り込んで行くかという武器になってくれたり、また夜空の星のように確かに進むべき方向を示してくれたり、消耗感にとらわれている時には暖かく包んでくれるのは、アルコール依存の人々との関わりからもらった“心へのメッセージ”である。

何人ものAAメンバーから、回復のはじめに少し関わっただけなのに、その後の長いお付き合いの中で、たくさんの心へのプレゼントを貰える幸せを、より強く感じるこの頃である。

今年の初めにも素晴らしいお手紙をたくさんいただいた。その幾つかをここに紹介したいと思う。

A子さんとの付き合いはもう6年くらいにもなるだろうか。いただいた年賀状の住所に印されたアパートの名が、彼女が過ごしたここ何年かの厳しい、道程を示していた。しかし文面は明るく生きる書びが私にもじんわりと伝わって来た。『AAの仲間を支えられながら、どうにか今日一日を重ねております。健康もだいぶ良くなって来ましたが、年齢的な衰えも感じます。昨春からパートで働き始めました。』

今年は正月の3日に娘2人が揃って来てくれて、何年ぶりかでお雑煮を作ってあげられました。明日のことは分からない私ですが、この幸福を二度とこわたくないという思いで一杯です』

入退院を繰り返していた当時のAさんは、ボロ布のような体と、夫や娘たちへの恨みに満ちた般若のような表情をしていて、そんな母への憎悪感を隠さない夫や娘たちとの確執は泥沼のようであった。そんな彼女がAAの仲間を支えられながら、自らの中にある根深い依存性に気付き、夫への依存を自らたち切って、

一人だけの生活を始めてからもう長い。

ようやく心の自立を得た彼女には、慈母のような暖かさが戻って来て、娘たちもその優しさ、暖かさに心のオアシスを求めて、ささやかな母の住まいを訪ねるようになったのだろう。当たり前前に生きる喜びを、謙虚に感謝出来る幸せを、彼女は今しっかりと手に掴んでいる。

Y子さんからいただいた年賀状には、生まれて3カ月の赤ちゃんの写真が貼ってあった。『泣いても私が声をかけると、ニコッと笑って、もう可愛くてたまりません。子供を産んで本当に良かったと思います。幸せ一杯です。先生にはじめから母親の自信をもっている人はいない。子供を育てながら自信は生まれて来るもの。子供と共に成長すれば良いと言われて、全く自信がなかった私にも勇気が沸きました。主人も常に励ましてくれて無事出産できました。母も“貴女が母親になったなんてまるで夢のようだ”と喜んでくれました。みんなの支えで母親にしてもらった私です。これから子供と共に日々成長してゆきたいと思います。AAのミーティングには主人が協力してくれてほとんど出席しています。子供にも、主人にも、そしてAAの仲間にも心から感謝しています。暖かくなったら子供を見せに先生の所へも伺いたいと思っています。』

溢れるような幸せを伝える年賀状を手にしながら、3年前当地へ来て初めて出会った女性のアルコール依存症者であった彼女の事を思い浮かべた。母に連れられて渋々来た様子で、状況の説明も母がすべて話した。新婚早々にもかかわらず、夫の留守中のマンションで毎日酔いつぶれ、離婚を宣告されかかっていた。母親になる自信どころか、一人の女性として、妻としての自信もなく『夫の気持ちがあつかめない。どう付き合ったら良いか分からない。夫は私を愛していないのではないか』などの不安で自らを縛り、酔ったときには夫を攻撃する、まだダダっ娘のように未熟な状態であった。それを心配する母は毎日マンションに通って本人の面倒を見ていた。

過食症も伴う彼女のような状態に陥る若い女性が、近年非常に増えている。これは現代に生きる女性が心

の成長過程で、悩み、葛藤し危機状態にあることを示している。Y子さんは幸いにも当時誕生したばかりの、地元のAAグループにつながる事が出来、仲間を支えられて通ううちに、どんどん成長して、夫と気持ちも通じ合い、相手のことを思われる女性に成長してきた。色白でふっくらとして、美しい顔立ちのY子さんが、赤ちゃんを抱いてニッコリとほほ笑む姿は、ラファエロの聖母子像のマリヤさまを連想させる。

A子さんもY子さんも、私が予想もつかないほどに人間的に素晴らしい成長を遂げ、また、成長し続けて

いる。彼女達の回復と成長の過程は、現代女性が直面している生き方をめぐる深刻な葛藤状況に大きな希望を与えてくれている。

即ちAAは心の歪みに苦しむ現代の人々が切望している、人間らしさを回復する方法を示してくれ、現代の錬金術のようである。このことはまた、今後の精神保健の最大の課題である“心の健康づくり”に重要な示唆を与えてくれていることに、私達は気付かなければならないと思う。

AA 15周年記念大会

全国の仲間の熱意の結晶として、AA15周年記念集会は無事幕を閉じることが出来ました。参加してくれた仲間はもとより、違った意味で私達をサポートしてくれた総ての仲間に、そして暖かい理解と協力を惜しむ事なくお与え下さった、多くの関係者の皆様に改めて心からお礼申し上げます。

大会は無事終了致しましたものの、ここに至るまでには数々の失敗も、齟齬もありました。へボ事務局長の奮戦記と題して、冷や汗ものの経験を綴ってみました。ご一読下さい。

1987年秋、日本青年会館で開催されたサービスフォーラムに参加し、席上ウツカリ「AA15周年は大阪で・・・」と口を滑らせてしまったのがこの苦勞の始まりであった。何人かの賛成してくれる仲間の声を力に、大阪に帰ってこの話を伝えたが、年配の仲間からは「とんでもないものを引き受けた」と頭からの反対意見も出されたが、とにかくやるだけはやってみるという意気込みだけでスタートを切ったのだった。しかし結果として日本のマスコミがこれほどの反応を示してくれたのも初めてではないかと考えると、最後になれば「本当にやって良かった」との一言に尽きるような気がします。

東京に運営委員会をおき、関西には実行委員会をおくという2元体制でやったことも良かったと思う。事務局、企画、広報、ツアー、財政等の委員会は、共通の部署としてKCO, JSOに所在を定めることとなった。参加券の売上も当初予定したよりは大幅に少なく、運営が財政的に破綻を来すのではないかの恐れから眠れない夜が続くのだった。

ついに開会3日前が来た。連日の緊張と疲労の蓄積もピークに達したようで、オシッコもウンコも出なくなってしまって、苦しくてたまらない。KCOの電話は引っぱり無しにジャンジャン鳴りまくり、下げかけたズボンの前を押さえて飛び出す始末では、この症状もやむを得ないのだろう。

内容は、参加の申し込みや、宿泊の予約、関係者や



家族からの問い合わせ、その間を縫ってJSOとの打ち合わせや確認をし、やむを得ないプログラムの変更も出るし、スピーカーをお願いした先生との打ち合わせや再度の確認と、今にして思えば良く頭の混乱もなく耐えられたものだといながら感心するばかりである。

仲間が作った金色燦然たるAAの丸に三角のシンボル・マークを会場に持ち込んだところ、舞台監督の大阪国際交流センターの主任が、「素人でこれだけのものを作ったのは見たことはない」とのコメントをくれたことが、疲れ切った我々に新しい活力を与えてくれた。『手作りの大会に手作りのシンボルマーク』大会の成功を予言しているように感じられたものだった。アラノンとの協力についても、GSOとの間に色々なやり取りがあったが、この大会に限りの協力態勢は万全であったし、大会に彩りを添えるばかりか、雰囲気や和らげ、特に鴻炉庵での本格的なお茶の接待は外人をはじめとする多くの人に好評であった。顧みれば「あすすれば良かった、ここはこうするのだった」と数々の問題ばかりが頭に浮かび、また目につくのだが、課題は多く残したものの、全体として大きな成功であり、日本のAAが次の20周年なりの記念大会を開催するのに、大きな経験を与えられたものと信じ、実行委員、運営委員の一人一人が、この経験の分かち合いの中にいられたことに深く感謝するものです。

今日一日

日本のAAの皆様へ

15周年おめでとうございます！ここを訪れ、それぞれの生き方を分かち合ってきたメンバーの方たちを通して、この集まりがあることを知り、私達と皆様全員との一体感を覚えています。この特別な催しを皆様と共に祝い、喜びを分かち合いたいと思っています。

メリノール シスター

*Congratulations on
your 15th Anniversary
Blessing & Love
Maryknoll Sisters*

JSOからのお知らせ

AA日本15周年記念集會にゲストスピーカーとして来日したドン・Pの当日のスピーチの内容がレポートとしてまとまっております。

その骨子は

1. アメリカでAAが医学分野に受け入れられた経緯と、現在の協力関係について。
2. AAのサービス構成について。

3. 1988年11月のアメリカ常任理事会メンバーによるソビエト訪問について。

以上について、ドン自身のAAプログラムのなかでの回復の経験を交えながら語ったその話は、非常に心打たれるものがあります。

是非ご一読下さい。

『AAプログラム世界を巡る』1部 300円

9ヶ月のメダルができました！

多数のグループの皆様から要望のありました、9ヶ月のメダルがこのほど出来上がりました。色はパープルです。ぜひご利用下さい。

1枚 200円

AA成年に達する - AA小史

AA Comes of Age

既にたくさんの方から予約注文を戴いている本書の発行が、諸般の事情により遅れております。

6月初旬の頃には発行にこぎつけたいと、一同力を合わせて努力いたしておりますが、皆様にはご迷惑をおかけし大変心苦しく思っています。心からお詫び申し上げます。

第11回

ミュンヘンAAワールド・サービス・ミーティング

= AA 「12の概念」を巡って =

まだ苦しんでいるアルコール依存の人達は、年々増加の傾向をたどっている。新しい仲間と一緒に、AAの「飲まない」行き方を実践して行くための方法を模索しながら、私達日本のAAは東京で初めて、全国の地域からそれぞれ選出されたAA評議員の方々による「日本ゼネラル・サービス・ミーティング」を開くことができた。

手をつないで協力することが私達にとって一番大事な回復を保証することなのだから、このことはささやかではあるけれどAAにとって大切に正しいやり方に向かう第一歩を踏み出したものと信じられる。そして今年の3月には大阪で3日間にわたり「15年 - されど今日一日」というテーマで『AA日本15周年記念集會』が開催され、近くは韓国、海外のAAメンバーも同じ仲間として参加し、行政、医療側の協力もあって、私達の回復の喜び、AAの一体性を広げて行く希望の光が明るく胸に宿ったのは何よりもまだ記憶に新しい事実である。

さて海外に目をやると、今年はAAの大きなイベントが二つある。一つは北米シアトルで7月に行われるAA創立55周年を祝う「国際コンベンション」であり、もう一つは西ドイツで現地時間10月14日 - 1

8日まで行われる「第11回ワールド・サービス・ミーティング」である。前者は色々楽しい楽しい催しを含んだお祭り、世界中のAAメンバーが参加できる。後者は「サービス」の国際的な経験の交流を目的としていて、AAの目的を正しく理解してもらい、それを押し広げるための諸問題をディスカッションする場で、今年は選出された評議員として2期目の「オフィス幹事会」所属の鈴木・TとJSOの山本の2名が参加させていただく予定である。(よろしくご支援をお願いします)

前回ニューヨークで行われたミーティングでコロンビアのボゴタで行われることに同意されていたのが何故変わったかということ、既に皆さんも新聞で存じのとおり、コロンビアでは「麻薬」の取引禁止を巡って政府と麻薬シンジケートの間で全面戦争が続いていて、解決が長引き一向に収まりそうにもなく、そこで第二の候補地である西ドイツが浮上したので、準備のための事務手続きも若干遅れぎみになった。コロンビアの仲間のために早く平和が訪れるように願うと共に、開催を引き受けて下さった西ドイツの評議会の皆さん、メンバーの皆さんにこの誌上を借りて感謝の意を表したい。

同時に今年から「ワールド・サービス・ミーティング」の費用として、評議員一人当たり経費が1700ドルに値上げされた。いつも赤字になるために「基金」の必要も感じられ、費用の捻出に苦しんでいる国(例えばポーランド)も評議員を送れるように考えている。ソビエットのAAが参加するのもそう遠いことではないだろう。私達は決して豊かではないが、日本のAA

もここまで来るためには、さまざまな精神的、物質的な援助をこうむっていることを忘れず、日本のJSOもそのための計画を提案しようと準備している。メンバーの皆さんのご理解と協力をお願いしたい。世界の人と一緒に手を結んで回復の輪を広げることで私達もより良く生きる。

地域からの近況報告

東北地域



福島県郡山グループより

発足してまだ日も浅い郡山グループですが、この度少ない仲間の力を出し合って、オープン・スピーカーズの集いを開くことに致しました。この地方にもまだ苦しんでいる多くの仲間がいるのは確かなのですが、私達のカも弱くメッセージが思うようには運ばません。この機会を一つの足掛かりとして、私達のグループの発展と、この地方へのAAプログラムの知悉、浸透を心から願うものです。

日時 1990年5月20日(日) AM10:00~15:30
会場 郡山市文化センター 郡山市堤下1-2
テーマ 『一緒にやろう』

岩手インターグループオフィスより

都合によりしばらくの間、オフィスの業務時間を日曜日の午前中のみとさせていただきます。大変ご迷惑をお掛けするとは思いますがよろしくお願いします。

来らんしょ 飯坂へ! 90—東北ラウンドアップ

全国の仲間の皆さん、関係者・専門家の皆様、東路の果てのその又奥つ方の国、みちのくからラウンドアップへご招待します。草深い田舎ですけれど、本当の空のある福島の新緑をお楽しみ下さい。今年は『奥の細道』から301年目、ゆかりの地を訪ねてみるのも一興でしょう。東北での二泊三日のラウンドアップは初めてなので、何かと行き届かぬ点はあるでしょうが、のんびりお湯に浸かって気楽にソプラエティをお楽しみ下さい。

日時: 6月2日(土) 3日(日) 4日(月)

場所: 福島市飯坂町湯野湯の上18

『福島県婦人会館』

費用: 参加費込み 2泊3日 18,000円

1泊2日 10,500円

詳しいお問い合わせはJSOへ

関東地域



関東地域集会より

広報委員会

本年度より関東地域のサービス体系が変わり、関東サービス・ネットワークと新しく構成され、今までそれぞれの委員会がもっていた、専門家協力、病院施設、広報の3つのセクションが一体となり、広報委員会としてサービス活動をして行くことになりました。どうぞよろしくご協力をお願いします。

広報委員会として一体化されましたが、専門家協力、病院施設は別個にリーダーを設け、今までと同じような活動をして参る予定です。各セクションの今年度の活動方針及び予定を報告します。

専門家協力担当は、年3回程程度の「専門家との集い」を開催予定しております。

病院施設担当では年に2回の「AA紹介セミナー」を企画しております。

広報担当では年2回の「パブリック・ミーティング」の開催を予定しております。

専門家の方、医療分野に携わる方、その他我々にとってはなくてはならない関係者の方にお問い合わせがあります。皆様のご協力無くしては私達には何も出来ません。各セクションの企画開催の節には、一人でも多くの方の参加とご理解をお願い申し上げます。

さて、本来の広報活動としては、ニューズ・レター

の発行が、日本ゼネラル・サービス・ミーティングに引き継がれたことにより、新たに関東地域としての広報紙を発行して行くことと致しました。メンバーをはじめとし、関係者の皆様からも関東地域のホットなニュースをお寄せ頂くことをお願いします。関東地域で行われる各種のイベントや、グループ活動などを主とした皆様の身近なニュースを提供して行く方針です。

中部北陸地域

中部・北陸セントラルオフィスが誕生して、早くも6カ月がたちました。日曜、祝日に仲間の協力を得てその日だけオープンして来ましたが『いつも留守番電話しか出ない』『連絡がつかない』等々の声が出てまいりました。やはり専門の職員、連絡係りのようなパート職員等のスタッフが必要であることが認識されてきています。オフィス運営委員会でもその必要性を認め職員の募集に踏み切りました。

我こそと思う方は是非お申し出て下さい。

又、この地域の仲間たちの交流が少ないので、親睦を深めるために来る5月19日(土)20日(日)に浜松で、中部・北陸杯争奪親善ソフトボール大会を開催致します。6月、7月には金沢、名古屋でオープン・スピーカーズ・ミーティングも開催されます。

詳細はオフィスにお問い合わせ下さい。

このように、中部・北陸地域も種々な意味で活動を始めており、全国の皆様からのご支援をお待ちしております。

中部・北陸セントラル・オフィス

〒462 名古屋市清水4丁目15番1号日宝黒川ビル404

TEL 052-915-1602



九州・沖縄地域

ハイ！こちらAAです。

鹿児島セントラル・オフィスてんやわんや物語

鹿児島にAAグループが産声を上げてから5年が経過していた。どういう訳かいつの間にか5つのグループになっていたのである。そもそもの誕生からAAの窓口を面倒見の良い精神保険センターが引き受けてくれた。引き受けてくれたと言うよりは、好意に甘えて引き受けてもらったのである。自分達でやろうとしなかったと表現するのが、より本当の姿を伝えているように思う。ただ発足から今までの5年間は、メンバーの数も少なく、AAの窓口も余り必要を感じ



なかったのも事実である。

ところが5年を過ぎたころから仲間も急速に増え、何かと連絡に支障を来すようになって来たのである。メンバーが少ないころには考えられないことが起こって来たのである。行政関係からの問い合わせや、家族からの相談が個人の家に電話や郵便で届くようになって来た。そこで当時のメンバー達が無い知恵を出し合った。『そろそろセンターからも自立して自前の連絡場所を作る時機が到来したし、特定の個人やその家族ばかりに負担をかけるのは良くないので、せめて専用の電話だけでも設けよう』と皆の相談は結論に達した。それでも『そんなものは必要ない』との反対の意見が無かった訳でもない。

我々の唯一の目的である 未だ苦しんでアルコール中毒者にメッセージを伝える 為には必要であるとの理解を得るために、話し合いを繰り返し説得に努めた先駆者達がいた。意見の一致を得たものの、専用の電話を引くためにも、事務所を借りるためにも先立つものが必要なのに、金は無かった。それでも不思議なことに2ヶ月程で12万円近くの献金が寄せられた。その献金を元に『まず出来ることからやろう』というわけで、仲間の仕事場の一部を間借りし、専用の電話だけをもうけてAA鹿児島セントラル・オフィスがスタートした。

軒先を貸して母屋を取られるの古人の言葉じゃないけれど、いつの間にか間借り人が事務所を占領していたのである。隅のテーブルに電話機とワープロだけをおいて細々とやっていたのは最初だけで、商売繁盛と言ったら不謹慎かもしれないが、何かと訪問者が多いのである。本来の主人のお客より 飲まない酔っ払いたちがここを訪れる方が多くなってしまっていた。この新たな訪問者の群れは遠慮というものを余り知らないで、他人のことなど構わずに堂々と振る舞うばかりでなく、応接セットも我が物顔に占拠してしまう始末である。1年半は電話番は殆ど主人に任せっ切りで、間借り人たちは自由気まま、傍若無人に過ごさせてもらったのである。

どうにもならないと言われた酔っ払い達に、少しだけ気配りの気持ちが芽生えたのかどうかは、判断に苦しむところだが、7年目になるうとする昨年の9月に、完全に独立した費用のオフィスを開設することになったのである。2DKのマンションを借りることが出来たのである。

マンションと言えば聞こえは良いが、実際はかなり古い建物なので、化粧直しは仲間たちの手を煩わせる

ことになった。

年中無休、朝9時30分より夕方5時30分まで、専従の職員と仲間のボランティアでオープンしている。専従の職員と呼べるほどの待遇では無いことは十分承知しているが、無給ではないということでこう呼ばせてもらっているが、奉仕の精神だけで勤めてもらっているに過ぎない。

一現在一日平均4名程度の訪問者があり、電話が毎日5～6本かかって来るようである。メンバー、家族、行政関係からの問い合わせと、内容も相手も様々である。机、椅子、黒板、鹿児島でもこたつにストーブ、クーラー、テレビ、書棚、ワープロ、コピーと一応の備品は備えているが、コピーを除いて大体は仲間から

の献品である。遠方からの仲間の訪問者の宿泊は認めているので、布団の用意もしてあります。(奄美大島の仲間がミーティングに参加するために3日間泊まってくれたこともあります)

地元の連絡事務所としてスタートした鹿児島セントラル・オフィスでしたが、近ごろでは九州地域としての機能をも帯びて来たように感じられます。AA九州&沖縄の編集及び発行、そして配送、ラウンド・アップや各種イベントの連絡、問い合わせ先としての機能を果たしている。これから先どう変化するかは予測は出来ないが、AAの唯一の目的であるメッセージを運ぶためのサービスの機関であり続けることだけは間違い無いだろう。

グループ誕生

人口100万以上の政令都市仙台を、今まで一つのグループでやって来ました。7年目にしてやっと南方面に愛と希望のメッセージを運ぶべく『みなみグループ』のオープン・ミーティングが終わりなきスタートをしました。

AA15周年の記念集会の夜、北の街仙台『みなみ』の会場は7時まで静粛だった。仙台の仲間が作ってくれた二つの献金箱(一つは東北セントラル・オフィス基金用)がキラッと新しく輝いている。仙台駅で今朝見送った仲間たちの楽しくやっている顔、顔が日に浮かぶ。『こんばんは』ポツリと一人、又一人と仲間がやって来る。春遅い北国の『みなみ』にも愛と希望の温もりは春に先駆けて、部屋に満ち溢れています。



世の中には捨てるに忍びない『死蔵品』がたくさんあるという調査結果がある。東京都消費生活モニター・アンケートで約1000人の回答者の70%が家庭に死蔵品があると答えている。死蔵品をどのように処分するか決めかねている人が殆どで、決めていると答えた人は僅かその中の17.4%に過ぎない。処分の方法としては、親類や知人に譲る、不用品交換会やバザーに出す、ごみとして廃棄する、との答えが大部分を占めるのだが、これらの死蔵品をラウンド・アップ等のイベントに献品提供願えれば、かつて一度ならず何度も死にかけていた私達が、AAプログラムによって新しい命を与えられたように、再度人の役に立つという再生が約束されるのである。ちなみに調査による死蔵品のベスト・5は、1、ミキサー・ジューサー 2、全集・百科事典 3、ミシン 4、こたつ 5、電気ポット、となっているが、これら以外にも多くのものが日の目を見ずに新しい主人を待っていることと思われる。

AAの未来に対するわれわれの責任…

共同の福利を第一にすること

共同体の一体性を守ること

われわれとこれからやって来る仲間の

命がかかっているのだから



編集後記

四季折々、変化に富んでいる日本は季節毎に美しいものがある。春には音があり、香りがあり、色がある。桜前線のみならず、大方の花前線は南から北上し、低地から高地へと咲き移っていく。人間と自然の共存の可能性を探る『国際花と緑の博覧会(花の万博)』が、4月1日、大阪・鶴見緑地で9月30日まで、183日間の会期の幕を開けた。

この花の万博に先駆け、やはり大阪でAA15周年記念行事が盛大に挙行された。参加者はAAメンバーが650人、関係各位の方が100人、大勢の人達が『酒を止めたいという願望』だけで集まり、AAに深い理解を示してくれ、成功裡に終了しました。大きな経験を学びとり感激です。

AA15周年には諸外国のメンバーも来日参加され、我々にメッセージを贈ってくれた、ご一読を。

ハンドブックの序文に『我々は自分達の献金だけで自立しているのである』とある。献金善意が、未だ苦しんでいるアルコール中毒者に救いの手を差し延べることが出来る。多くの献金をメンバーにお願いしたい。献金出来ることはソーバーの証としてハイヤーパワーに感謝。
スタッフ